

グリーン四国

No.1256
2024年
11月号

「山腹工におけるICTを活用した 施工管理の現地検討会」の開催 【詳細は2頁】



日本最古の複層林(四万十町奥大道 桜ヶ瀬山国有林)

目次

- ・「山腹工におけるICTを活用した施工管理の現地検討会」の開催 2
- ・秋の「緑の募金」街頭募金活動～皆さんの善意で森林づくり～ 3
- ・もくもくエコランド2024 第7回森林環境学習フェア開催 4
- ・2024ウッドフェスティバルに参加 5
- ・「梶原町太郎川森林フェスティバル」の開催 6
- ・「農林業体験インターンシップ」幡多農業高等学校が千本山で登山学習 7
- ・業務研修を受講して(基礎C-森林の収穫) 8
- ・高知県西部と愛媛県南予の小学校4校で森林環境教育を実施 9
- ・四国におけるナラ枯れの発生と今後の対応を考える 10
- ・国有林の境界管理について 11
- ・管内の見所紹介 西日本でいちばん空に近い道「UFOライン」 12



四国山の日

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30
TEL 088-821-2052
HP <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>
E-mail shikoku_soumu@maff.go.jp

「山腹工におけるICTを活用した 施工管理の現地検討会」の開催

香川森林管理事務所

10月8日、香川県仲多度郡まんのう町杵多尾国有林63林班の山腹工事箇所において、ICTを活用した施工管理の現地検討会を開催しました。当日はあいにくの雨模様ではありましたが、香川県庁・徳島県庁や事業者、各森林管理署から60名を超える参加者の出席がありました。



本工事箇所は急峻な傾斜地であり、起工測量や出来形測量を行う際は、機器を持った技術者が命綱を使用して区域を計測する必要があります。そのため、危険性が高い作業となっていました。



そこで、本工事ではRTK技術（固定局と異動局の2つの受信機で複数の衛星から位置情報を取得する技術）を搭載し、cmレベルの高精度測位が可能なUAV（無人航空機）を用いた測量を導入することとしました。UAVでの測量実施に当たっては、事前に飛行経路を作成するだけで、UAVが自動飛行・画像撮影を行い、撮影画像を処理することで測量作業が完結するため、技術者が現地の斜面に立ち入る必要がありません。

検討会では①ICT技術を活用することにより、測量に要した時

間や人員が従来の起工測量や出来形管理の手法と比較して半減したと、②施工後の維持管理においても測量結果との対比が容易であること、③ICT活用工事に使用した機材や手順等の詳細な内容などについて、施工者の大西建設株式会社及び株式会社総合開発の担当者様から御説明いただきました。



また、局治山課長より遠隔現場の説明がありました。遠隔現場は発注者が現場から離れた事務所などでカメラを通して施工地の状況

確認や出来形の確認を行うシステムであり、ICTと併せて四国局管内の治山・林道工事での活用が検討されています。

検討会の参加者からは「測量の精度を上げるために設置する検証点や標定点は維持管理のために工事完成後も設置したままなのか」「起工測量の際に木が邪魔でドローンの撮影に苦労したと言っていたが、出来形の計測時は現地の状態がしっかり撮れているのは何故か」といった質問があり、ICT技術の導入への関心の高さが伺えました。

四国森林管理局では今後も積極的にICT活用工事を実施することで受注者の作業の省力化、安全性の向上を図り、治山・林道工事の更なる効率化に努めてまいります。



秋の「緑の募金街頭募金活動」 皆さんの善意で森林づくり

〈局技術普及課〉

10月12日、三連休のさわやかな秋晴れの中、公益社団法人高知県森と緑の会主催による秋の「緑の募金」街頭募金活動が、高知市帯屋町商店街一帯で行われました。

出発式では、川田高知県森と緑の会理事長の挨拶のあと、竹内四国森林管理局長より、「国民参加の森林づくり」の機運が一層盛り上がりますように」と願いを込めて祝辞が述べられました。



その後は中央公園北口とひろめ市場前に分かれ、緑の少年団やボランティアの皆さんと一緒にチラシを配りながら、森林資源の維持



のための募金を呼びかけ、募金をしてくださった方々には、緑の羽根と花の種を配布しました。

募金を呼び掛ける人も、募金してくださる方の明るい声と優しい笑顔に包まれた時間を過ごすことになり、温かいご支援とご協力に感謝するとともに、山を守ることの大切さを改めて感じた一日になりました。

ご協力いただいた募金は、森林整備や緑化推進、子どもたちへの森林環境教育に使われます。豊かな森林資源が子どもたちの未来に繋がっていくように、これからも更なる緑の輪が広がっていくことを願います。



もくもくエコランド2024
第7回森林環境学習フェア開催

〈局技術普及課〉

10月28、29日の2日間、高知市の中央公園で「もくもくエコランド2024 第7回森林環境学習フェア」が開催されました。本フェアは、高知県の森林環境税も活用して、県民の皆様には森林の役割や大切さを感じていただく機会になるよう、毎年この時期に開催されています。



オープニングセレモニーでは、主催者であるもくもくエコランド実行委員会の小川委員長と、高知県の林業振興・環境部の西村部長からの挨拶の後、桑名高知市長、竹内四国森林管理局長の祝辞と続き、テープカットならぬ丸太カットにより各種イベントがスタートしました。



もち投げでは、竹内局長も法被を着て、後ろの人まで届くようにと投げる腕に力を込めて、たくさんのお菓子やお餅を投げられました。ステージでは、「木あそび楽校」というテーマのもと、学校のチャイムが鳴ることに歌やダンス、チェンソーの実演や木を使った

楽器作りなど様々なイベントが繰り広げられました。

会場では50ほどのブースが森林保全などについて知ることができ「学ぶ教室」、日常生活で使う木製品を買うことや住宅について知ることができ「暮らしの教室」、木に触れ、木の良さを感じることのできる「体験教室」という3種類に分けられており、給食エリアと称された飲食店の出店スペースもありました。

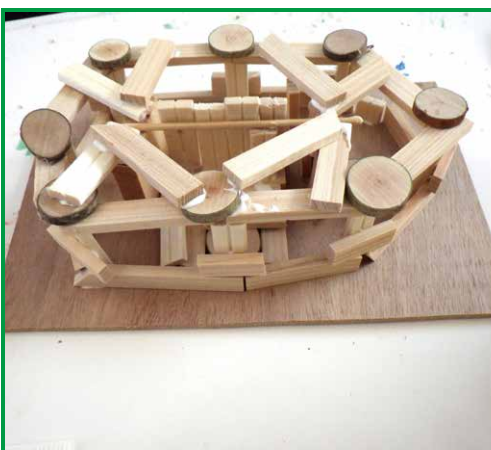
当局からは、森と人との関わりを知って、森や木材の魅力を発見できるように、「※たんね歩記」や森林の働きについてのパネルの展示と、木工教室を行いました。いろいろな形の木材を組み合わせて自由な発想で作る木工や、木の輪切りにイラストを描いて作るキーホルダー、松ぼっくりにフェルトを貼って作るフクロウの置物など、参加者の好みに合わせて挑戦してもらいました。

小さなお子様から大人まで、たくさんの方々に合わせて、2日間のイベントには、約6400人の来場がありました。「これは何の木でできている

の?」「この山はどこにあるの?」「僕も木を切ってみよう」などの声もあり、参加者には、森や木材に興味を持ってもらえたと思います。

(※参照 たんね歩記

https://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/policy/business/invitation/yamaaruki_jirasutomap.html)



2024ウッドデイ フェスティバルに参加

〈香川森林管理事務所〉

10月5、6日の2日間、高松市内のサンメッセ香川にて、香川県木材需要拡大協議会主催によるウッドイフェスティバルが開催されました。

ウッドイフェスティバルは香川県産木材の需要拡大を目的に昭和62年から例年開催されており、今年で35回目の開催となります。

今年は、香川住宅フェアも同時開催され、両日で約7000人が足を運びました。会場には各企業ブースや木工体験が出来るコーナーがあり、子供から大人まで楽しみながら木づかいと共にある暮らしを体感できるフェアとなりました。



木工体験

香川所からもブースを出展し、簡単な木工体験、屋島や飯野山をドローン空撮した動画上映、森林の大切さや木材の魅力などを伝えるパネル展示等を行いました。

木工品の作成は大人から子どもたちにも好評で、どんぐりを使ったアニメキャラクターの工作や小枝の輪切りに思い思いの絵を描き、色塗りを行う「木いホルダー」作りを通して、木材や森林を身近に感じていただくことができました。



パンフレット配布

また、来場者の中には香川県内に国有林があることを初めて知った方もおり、職員が撮影・作成したポストカードや職場紹介のパンフレットにも興味を持っていただくことができました。

2日間にわたって行われたフェスでは、小学生や女性参加の丸太切り大会や木材チップの海での宝探し、木工教室、木製遊具などが親子連れで楽しめるイベントなどが様々開催されていて、どれも大盛況の様子でした。



パンフレット配布

2日間のイベントを通じて、一般の方に木にふれあっていただくとともに、国有林での仕事や森林の現状や重要性をお伝えすることが出来ました。

また、興味や関心を持っていたいたときの喜びも感じたと同時に、わかりやすく説明することの難しさも実感しました。

今後もこのようなイベントを通じて、より多くの方に国有林の情報発信が出来るよう努めたいと思います。



完成品



「梶原町太郎川森林フェスティバル」の開催

〈四万十森林管理署〉

10月5、6日の2日間にわたって、梶原町太郎川森林公園にて梶原令和の森林づくり協議会REMORRが主催する森林フェスティバルが開催されました。このイベントは「もう一度、一緒に森林にはいろう」をテーマに林業従事者をはじめとして、広く一般の方に林業の魅力を発信し、森林のよさに気付いてもらうことを目的としており、当署も6日に参加しました。

当日は、町内外から多数の出展があり、木のおもちゃ作りやお箸作り体験、苔玉作り、5mm木材から4連ゴム鉄砲を作るワークショップ、県産ヒノキを使った海釣り作品展示など多種多様なものでした。ステージでは、座ってできるヨガ、シンガーソングライターや高校生バンドの歌や演奏などのイベントもあり、こちらも大盛況でした。

当署は昨年に引き続き、4回目の参加となり、若手職員を中心に10名が参加して、季節的には少

し早いですが「松ぼっくりのクリスマスツリー作り」を出展しました。これは、あらかじめ色付けして土台に取り付けた松ぼっくりを準備しておき、来場した人に自由にビーズや綿などでデコレーションしてもらったものです。

この日は、別会場においてゆすはらグルメまつりも同時開催されており、フェスティバルへの来場者数を心配していましたが、予想に反して多くの方々の来場がありました。

当署のブースも多数の子供連れ



の家族などが訪れ、カラフルな松ぼっくりを見て「きれい」「どれも魅力的で1つに絞れない」などの声も聞かれ、それぞれにきれいに飾り付けたクリスマスツリーを作っており、完成後にはお礼の声をもらい、当日までの準備など職員の苦勞も報われた一時でした。

これからもこのようなフェスティバルに積極的に参加し、森林のすばらしさについて実感してもらえよう、職員が一丸となって取り組んでいきたいと考えています。



作成の様子



完成品



「農業体験インターシップ」 幡多農業高等学校が 千本山で登山学習

〈安芸森林管理署〉

高知県立幡多農業高等学校グリーン環境科では、毎年1年生が2日間の日程で農業体験インターシップを行っており、10月18日に安芸森林管理署管内の千本山で登山学習を行いました。

当日の魚梁瀬地区は雨の予報でしたが、バスで登山口に到着頃は快晴になり、学生18名、教職員2名、当署から4名の職員が参加し、千本山の名所を巡りながら展望台を目指します。



橋の大杉



鉢巻落とし到着

はじめに、千本山保護林の概要、林内での歩行時の安全確保等について注意喚起をし、登山を開始します。「千年橋」を渡り終えると「森の巨人たち百選」に選ばれている「橋の大杉」が参加者を出迎えます。橋の大杉の名前の由来、直径や高さ等について地域統括森林官から説明をおこない、学生たちは真剣に聞いていました。

今年の登山は暖かくなかつ湿度も高い中、学生たちは汗をかきながらも一生懸命に歩き、親子杉、た



魚梁瀬杉の大きさを実感

こ足杉、鉢巻落としといった名所の説明を熱心に聞きながら写真撮影をしていました。下山後は、「とても疲れた、魚梁瀬杉を初めて見て驚きました」等の意見があり、学生たちには良い経験になったと思います。

安芸森林管理署では、これからも千本山の保護林やレクリエーションの森の利用を通じて森林・林業の普及活動や緑の大切さなどのPR活動に取り組んでいきたいと考えています。

入林される皆様への注意事項

国有林に入林する際には、以下の事項について注意してください。

- ①草木やキノコなどの採取、樹木の伐採や損傷をしないでください。
- ②自然保護などのために立入が制限されている箇所へは入らないでください。
- ③ゴミは持ち帰りましょう。
- ④枯木や枯れ枝は危険ですので、近寄らないでください。
- ⑤タバコなど火の取扱いには十分注意してください。
- ⑥林道は未舗装箇所が多数あります。通行の際はご注意ください

登山は自己責任です。天候や登山情報を確認し、十分な装備で入山してください。また、ご家族へ行き先を告げるとともに、登山目的地を管轄する警察署等へ登山計画書を提出してください。

業務研修を受講して (基礎C)・森林の収穫

愛媛森林管理署宇和島森林事務所
青山 侑馬

9月30日から10月4日までの5日間、四国森林管理局にて令和4年度採用者及び令和6年度選考採用者を対象にした業務研修(一般業務研修・基礎C・森林の収穫)を受講しました。

研修は初日に3つの講義、「幹部講話」、「計画課の概要」と「資源活用課の概要」があり、2日目から5日目は「収穫調査業務」、「架線集材」と「ワイヤーロープ」の扱い方について学びました。

初日の「幹部講話」は総務企画部長から国有林の歴史や収穫調査の重要性について教えていただきました。講話の中で現在では森林の公益的機能を重視した取り組みが行われているため、資源量把握の基礎となる収穫調査は非常に重要であることが語られ、普段業務

で暑い中、汗と泥で服を汚しながら山で調査を行う収穫調査に少々嫌気が差していました。が、頑張ってみようかなという気持ちで芽生えました。「計画課の概要」と「資源活用課の概要」では国有林野施業実施計画などについて復習し、四国局内の国有林の状況や国有林内での事業予定から実行までの流れ、行政が行う生物多様性保全について勉強しました。

2日目以降の「収穫調査業務」の講義は資源活用課の方々が講師となり、嶺北署管内にある焼滝黒滝山国有林で実際に収穫調査対象範囲の踏査や標準地設定、標準地内での毎木調査を行った後、調査結果をもとに復命書の作成までを教わりました。踏査は5000分の1の図面を見ながら、どのルー



トを通して山を見たらいいのか、収穫調査を行うのに適した標準的な場所はどこになるかなどを考えた林内を歩いて回りました。

踏査が終了したら目星を付けた場所で20m×20mの標準地を測量機と巻き尺を用いて表示し、表示した標準地内にある立木の径級・樹高の計測と伐採する木を選定しました。私は森林事務所勤務をしていることもあり収穫調査によく同行しますが、先輩や上司の方が決めた場所で調査を行うことが多く、みんなで話し合いながら標準地を取ったり、伐採木を選定したりするのが新鮮で楽しかったです。

復命書作成では調査した結果をプログラムに打ち込んで、国有林情報システムに入力するまでを行いました。復命書を作成したことが無かったため、調査結果がどのようにデータとして残るのか知ることができました。

「架線集材」と「ワイヤーロープ」の講義は森林技術・支援センターの方々が講師となり、架線集材の

基礎や集材機の仕組みなどを教えてもらいつつ、実際にミニ集材機を動かす経験をして架線集材の理解を深めました。最後にワイヤーロープの先端部分に輪(アイ)を作る方法を教えていただきました。実際に作ってみるのは非常に難しく、ワイヤー自体を傷付けてしまいい現場では使えないものを作り出してしまいました。

この研修では局資源活用課含め職員の方々と懇親会もあり、業務では聞けないことを話したり、普段業務で接点のない方と交流できたり1週間楽しく過ごすことができました。研修を通して学んだ知識をしっかりと活かして、今後の業務に取り組んでいきます。



高知県西部と愛媛県南予の 小学校4校で 森林環境教育を実施

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

○概要

四万十川森林ふれあい推進センターでは、各学校からの要請を受け、9月から10月にかけて黒潮町立上川口小学校4年生5名、松野町立松野東小学校3・4年生計11名を対象に土にすむ生物の学習と水の土壌浸透実験、また、宿毛市立山奈小学校3年生15名を対象とした森林・木工教室、さらに四万十市立西土佐小学校4年生9名を対象に土にすむ生物の学習を実施しました。

○土にすむ生物の学習

最初に、座学で土の中の生き物の役割について学習し、次に、土にすむ生物の観察をしました。当センターのある四万十市立旧西ヶ方小学校の土(畑・花壇)を試料として、スクリーンに映した顕微鏡の映像を見ながら土の中で様々な生き物が活発に動いている様子を全員で観察しました。土の中で

見つけたダンゴムシやアリは「このサイズ?」と思うほど大きく映り、動き回る多数のトビムシ、早く動き回る白色の生き物や細長く半透明の不思議な生き物も見られ全員が無言になり凄い集中力で観察していました。担任教諭が「将来の博士達?」と驚くほど、児童達の興味を誘ったようです。土の中にすむ小さな生き物の存在に気づき、その生き物たちが豊かな土を作るために大切な働きをしていることを学習してもらえました。



土にすむ生物の学習の様子



水の土壌浸透実験の様子

○水の土壌浸透実験

「木のある山」と「木のない山」を再現した模型による「水の土壌浸透実験」です。「木のある山」の模型は、「土にすむ生物の学習」で説明した森林の土の層について、一層目は枯れ葉等(A層)、二層目は腐葉土(A層)、三層目は、林道沿いに見える切通しの斜面

(B・C層)として森林の土壌を再現したもので、「木のない山」は、各小学校の運動場の土を使用し、荒廃地を再現したものです。この模型にジョウロに入れた水を雨水に見立てて降らせ、時間の経過による変化を調べる観察実験をしました。実験に先立ち解説パネルとスポンジを使い、森林の土には葉っぱが積もって小さな隙間がたくさんあるので、土はまるで大きなスポンジのように降った雨を沢山吸収して蓄えられること、また、森林の土はフィルターの役割を果たすので、ゆっくりと水が土に浸透することで雨水がろ過され、きれいな水となることを説明しました。

観察を進めて行くと、荒廃地を再現した「木のない山」は、早い段階で土砂が流され、斜面に置いた模型の家や車が流されたのに対し、「木のある山」は、森林に見立てた木々の模型、敷き詰めた落ち葉や腐葉土がクッションとなり、雨水による土の浸食を防ぎ雨水を土の中に蓄えることで、時間が経過しても見た目の変化が起こりませんでした。

観察後のふりかえりでは、全員が「木のある山」の方に住みたいと答えてくれました。森林の山地災害防止機能には限界はあるものの、森林が雨水を吸収することで土砂の流出を防ぐことや川の水量を調整し自然災害からくらしを守り、水をはぐくむなどの働きについて実験を通して理解してもらえたと考えます。

○森林・木工教室

森林教室では「山(森林)からの贈り物」という紙芝居教材を使って、森林の役割について児童と対話形式で学習を進め、続いて木工教室では、小枝等を使った「カブトムシ・クワガタムシの壁掛けや置物」を作り、木工クラフト作りを通して木に親しんでもらいました。

○おわりに

当センターでは、学校等教育機関の要請にも応えつつ児童・生徒を対象とした活動や体験ができる森林環境教育への支援を推進しています。



カブトムシ・クワガタムシできたよ

四国における ナラ枯れの発生と 今後の対応を考える

森林総合研究所四国支所
流域森林保全研究グループ
主任研究員 後藤秀章

ナラ枯れはカシノナガキクイムシ (Platypus quercivorus (Murayama)、以下、カシナガ) とその随伴する病原菌である通称ナラ菌 (Raffaella quercivora) による樹木病害であり、集団で枯れることと、真夏に紅葉のように変色することから大変目立ち、マスコミに取り上げられることも多い病虫害の1つです。四国では古くは1950年代に被害の記録と標本によるカシナガの分布の確認がなされていますが、その後長く被害の発生もカシナガの生息も確認されませんでした。ところが2011年に徳島県海部郡で被害が発生し、その後徳島県、香川県、高知県の東部から西に向かって被害が拡大してきています。また、高知県の西部の禰原町、黒潮町、四万十市でも被害が発生したため、離れた場所で突然被害が発生する

可能性もあります。このように、被害地域は徐々に拡大してきており、今後四国全体に拡大していくことが危惧されます。

ナラ枯れの管理については、発生前に行う予防、発生後の防除と被害木の管理がありますが、できれば被害の発生前にあらかじめ対処について考えておくことが重要と考えます。とくに重要な木、例えば地域のシンボルになるような巨樹や御神木といった木については替えが効かないため、予防によって保全を図る必要があります。ナラ枯れは一般的にサイズの大きな木から被害を受ける傾向があるため、このことは非常に重要です。また、激害の年には行政に対して住民やマスコミからの問い合わせが増える傾向がありますが、あらかじめ対処法など決めておくことで、こうした問い合わせに円滑に答えることができるとともに、住民の不安を取り除くことにもつながります。発生後の防除については、効果を見極めて行う必要があります。また人の往来が予想される場所、公園、遊歩道などでは、枯れ枝の落下や倒木による人的・

物的な被害を防ぐために、速やかな被害木の除去が望まれます。

被害地もしくは発生が予想される場所の地域、林の特徴、将来的な展望は、ナラ枯れの管理を考える上で重要です。ナラ枯れは地域や樹種によって被害の推移が異なるため、他の地域での調査例が参考にならないことがあります。もちろん最初はこれまでの研究などを参考にしていくのですが、四国のことは四国で調査して検討していく必要があります。将来的にどのような林にしていくのか、例えば若齢二次林として維持していくのか、それとも遷移に任せて、老齢自然林にするのかによっても、管理法が違ってくるでしょう。以

上のような地域に合わせた管理法を確立するためにも、必要な情報の収集に努めてまいります。



カシナガの侵入を予防するための網による被覆
(広島県金ヶ峰山国有林)



ナラ枯れにより枯損したコナラ (徳島県吉野川市)

国有林の境界管理について

保全課長 牧尾 幸之助

こんにちは、四国森林管理局保全課長の牧尾です。保全課の業務は、国有林野の森林病虫害の保護に関する事務、国有林野の活用に関する事務、国有林野その他森林管理局所属の国有財産の管理及び処分に関する事務など、その多くの業務が専門的であり、結果ができるまで時間のかかる業務となっております。そんな多様な保全課業務の中から、今回は、国有林の境界管理についてご紹介させていただきます。

四国の国有林の面積は、約18万ha。四国の森林の約13%を占めています。

国有林と民地の間には境界があります。この境界を明示しているのが境界標であり、石でできたもの、コンクリートでできたもの、中には天然の岩に十字を刻んだものなど、様々な種類の境界標があります。その境界標の数は、197,720点、斜距離で4,729kmとなっております。それらの境界標の保全については、森林官等による境界巡検などにより管理保全されているところです。

経験の多い職員の皆様にとっては、当たり前の境界標ですが、さて、これらの境界は、いつ、どのようにしてできたのだろうか。気になり調べてみました。

国有林の生いたちは、慶応3年の徳川幕府の大政奉還につき、明治2年各藩の版籍奉還、明治4年の社寺領上知令によって、

徳川幕府などの諸藩侯から、幕領、藩領または社寺領を明治政府が引継いだものです。明治6年の地租改正の一環として定められた「山林原野等官民区分処分法」により、明治9年から山林所有区分を明確化する官民有区分が実施され、明治14年（1881）に農商務省山林局の所管となりました。

その後、農林省山林局所管の旧内地国有林、宮内省帝室林野局所管の御料林と内務省北海道庁所管の北海道国有林の3つに分かれていた国有林は、昭和22年（1947年）のいわゆる「林政統一」により、農林省山林局（林野庁）で二元的に管理経営されることとなりました。

官民有区分などにより決定された境界の成果は、現在の標識原簿に引継がれているところです。

昭和23年までの旧国有林野法に基づく境界の決定については、境界査定という行政処分決定しており、その当時に決定され



天然岩に十字を刻んだ石標



樹木と一体化した石標

た境界は、境界図、査定図として現在でも国有林の境界の証として活用する場面があるところでは、

当時は車でいける道もなく、もちろんドローンもない時代で、奥山や海岸線などに人力により測量機械を持ち込んで、国有林を測って埋設してきたことを思うと、先輩たちの努力の結果は偉大であり、また、当時の測量図の成果である境界図などは歴史と風格なども感じます。

それが今もなお、現在の境界管理につながっていることを考えれば、国有林の仕事は歴史があり、それを保全管理する境界管理は、国有林の管理経営の基礎となる重要な仕事と言えます。

現場で巡検する際には、古い境界標に出会えたら、先人達の大変な努力と、100年以上前から国有林の境界を守っていることを思いながら、日々の境界管理と保全をお願いいたします。

管内の見所紹介

西日本でいちばん空に近い道
「UFOLライン」

〈嶺北森林管理署〉



嶺北森林管理署は、高知県中北部に位置する約2万8千haの国有林を管轄しており、推定樹齢400～600年ほどの天然ヒノキの森、八反奈路を有する白髪山（1,469m）や、「日本美しいの森」お薦め国有林に選ばれている「工石山自然休養林」を有する工石山（1,176m）などを代表とする様々な自然環境があります。

多くの魅力的な場所の中から、今回は西日本最高峰の石鎚山を背景に伸びる全長約27kmのいの町道「UFOLライン」についてご紹介します。

「UFOLライン」は、高知県と愛媛県の県境沿いにある寒風山（1,176m）から伊予富士（1,756m）、瓶ヶ森（1,897m）へと連なる稜線沿いに位置しており、正式名称は「いの町道瓶ヶ森線・瓶ヶ森西線」といいます。現在は

いの町の町道ですが、かつては林業生産の向上を図るための専用林道として、昭和43年から昭和48年にかけて開設された「瓶ヶ森林道」で、西条宮林署（現愛媛森林管理署）・高知宮林署（現嶺北森林管理署）が管内で収穫事業を行った歴史があります。

また、「UFOLライン」は、雄大な峰々が続く道ということから「雄峰ライン」と呼ばれていましたが、昭和62年当時、登山者がここで撮影した写真にUFOLが写っていたことが話題となり、現在では「UFOLライン」の愛称で親しまれています。一方、地元の方やツーリングを楽しむ方には「天空の道」とも呼ばれています。

平成30年にTOYOTAのカーラスポーツのCMに登場し、さらに知名度が上がりました。

訪れる目的も様々で、県外から観光目的やバイクでのツーリング、地元の方が良い景色を見ながらお昼ご飯を楽しむため、家族連れでドライブするため、登山をするため等、多くの人がそれぞれ楽しまれています。

道路はカーブの多い一車線の舗

装道路ですが、所々に駐車できるスペースがあり、写真やドローン撮影に人気があります。また、瓶ヶ森をはじめとする稜線やピーク（山頂）へと登山道が伸びており、ハイキングを楽しむこともできます。一面のササ原の中で風を感じながら歩みを進めて、ピークに立てば、瓶ヶ森から子持権現山（1,677m）、さらには西日本最高峰の石鎚山（1,982m）まで望むことができ、四国を代表する山々や自然景観を楽しむことができます。

モミなどの針葉樹や広葉樹の天然林が、高低差の大きい迫力ある山の斜面に沿って広がっており、春の新緑や秋の紅葉など、季節ごとに変わる自然の姿が五感を楽しませてくれることでしょう。

吉野川源流碑もあり、この地を起点としてやがて徳島県を通過し海へと続く吉野川の雄大な川の流れに思いを馳せることができます。

11月末から4月上旬までは冬季閉鎖となり通行できません。事前に通行状況等ご確認の上でぜひ一度訪れてみてください。



ドローン空撮自念子ノ頭 瓶ヶ森～石鎚山